



No.49 (2014.11)

地域と結ぶ

順天堂大学練馬病院ニュース

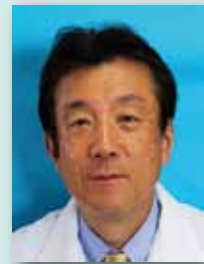


地域の皆さまの
心と身体のオアシスで
ありたいと願っています。
何なりと
ご相談ください。

放射線治療のご紹介

放射線科 教授 直居 豊

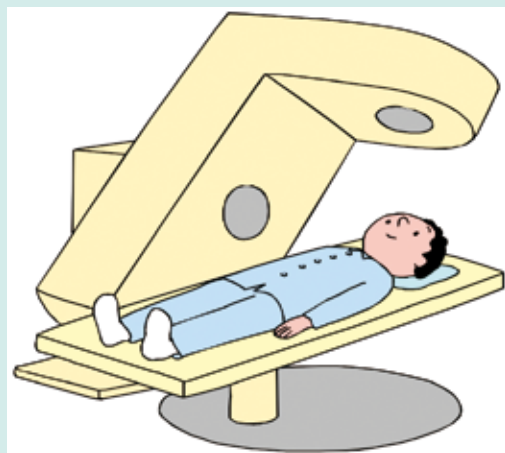
このたび、順天堂大学練馬病院放射線治療学の教授を拝命いたしました。放射線科は大きく分けて診断学と治療学に分かれます。近年がん患者さんは右肩上がりに増加しておりますが、がん治療の3大柱として手術、薬物治療、そして放射線治療があります。私たちはがん治療の主軸の一つである放射線治療を日々行っている診療科です。



教授 直居 豊

順天堂大学練馬病院にはピンポイント照射など放射線を可能な限り病変部に集中できる最新の放射線治療装置が導入されております。簡単に言えば副作用をできるだけ少なくし、病変へはたくさん放射線を照射できるのが特徴です。

私たちのモットーは患者さんの視点に立ち、「安心、安全で高精度な放射線治療」です。放射線科では医師、放射線技師、看護師そして放射線治療の精度を管理する放射線物理士、さらにはがん患者さんの心理的サポートを行うがん治療センターも併設されており、チームとなって日々の診療に従事しております。放射線治療は副作用が怖い、痛いのではないかと、後遺症に苦しむのではないかなど、多くの誤解があります。身近にがん治療で悩んでいる方がおりましたら是非、一度放射線科にご相談ください。



ボツリヌス外来

脳神経内科 科長 三輪 英人

第1および第3木曜日の午前中に「ボツリヌス外来」を開設いたしました。「ボツリヌス外来」は、ボツリヌス毒素注射療法を行うための専門外来です。これは、ボツリヌス菌が作り出す天然のタンパク質（毒素）を身体の一部の筋肉に注射するもので、医療保険で認可されている治療法です。ボツリヌス毒素には筋肉の緊張を緩和する作用がありますので、これを安全に使用することで、筋肉のつっぱりや緊張を改善することができます。脳梗塞の後遺症による手足のつっぱり（痙縮）、顔面や目の周りの筋肉のけいれん（顔面・眼瞼けいれん）、首の筋肉の緊張による頭の位置のゆがみ（痙性斜頸）、などが治療の対象となります。ボツリヌス外来は完全予約制となりますので、気になる症状がある方は脳神経内科の外来を受診いただきます。（まず、ボツリヌス毒素注射で改善できる症状かどうかを診させていただきます。）



科長 三輪 英人

ボツリヌス療法の期待できる効果

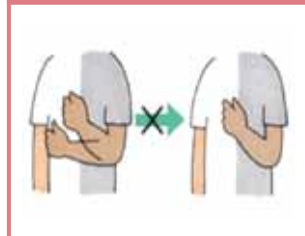
介護の負担が軽くなります



リハビリテーションがしやすくなります



関節が固まって動きにくくなったり、変形するのを防ぎます



C-cube(シーキューブ)プロジェクト 看護部

本年も8月9日(土)に、6回目の病院体験イベントを行いました。この催しは、練馬区内(Community)のこども(Children)たちとの交流(Communication)を深め、地域に根差し開かれた病院になることを目指し、「C-cube プロジェクト」と称して開催しています。



聴診器を使って心音を聞かれています。



沐浴の体験です。



2人で協力して着替えをしています。



顕微鏡で血液の細胞を見かれています。



手術室を見学!



食事の準備を見学です。

今年度は、過去最多の37名の小学生が参加しました。実際に聴診器を用いて自分やお友達の心臓の音を聞いたり、模型の赤ちゃんをお風呂に入れたり、様々な医療体験に挑戦しました。初めは緊張気味のこどもたちでしたが、一つひとつ体験するたびに、「むずかしいね」「おもしろい」など感想を言い合いながらも、真剣な表情で取り組んでいました。

今回の体験をしたこどもたちの中から「大きくなったら病院で働いてみたい」と思ってくれるこどもたちが一人でも多く誕生してくれることを願っています。そんなことを夢見て、これからも「C-cube プロジェクト」の活動を進めていきたいと思えます。

広域医療搬送訓練の参加報告

救急・集中治療科 准教授 野村 智久

本年8月に行われた内閣府による広域医療搬送訓練に、当院のDMAT（災害派遣医療チーム）も参加してきました。南海トラフ巨大地震による津波被害の想定で、九州地方に日本各地から多くのDMATが参集し、ヘリコプターなどを用いた傷病者の広域搬送や被災地の病院支援を行いました。



准教授 野村 智久

当院のDMATは本部からの指示により、熊本空港に参集した後、宮崎県の支援を担当することになりました。宮崎県立延岡病院へ移動し、さらに指示を受けて日南市内の病院の支援に向かいました。実際に診療資機材を持参し、被害を想定し、経路を選択してレンタカーで移動し、病院支援を具体的に訓練するという極めて実践的なもので、大変良い経験となりました。

当院は災害拠点病院の責務を果たすべく、DMATのみならず病院を挙げて災害の準備をしております。



熊本空港内の広域医療搬送拠点本部に日本各地からDMATが参集しました



宮崎県立延岡病院内のDMAT活動拠点本部の様子



順天堂大学練馬病院のDMATメンバー

自衛消防技術審査会

9月5日(金)、都立光が丘公園で開催された「自衛消防技術審査会」に防災センターチーム、看護師チームの2隊が参加しました。この審査会は、毎年東京消防庁の主催で行われ、光が丘消防署管内では、25隊(1号消火栓の部 14隊、2号消火栓の部 11隊)が参加し、日頃の訓練の成果を競い合いました。

当院の2隊は2号消火栓の部にエントリーし、防災センターチーム・看護師チームが共に準優勝という結果でありました。防災センターチームは過去の全ての大会で3位以内に入賞しており、今年も前回大会に続き優勝を目指しましたが悔しい結果となりました。一方、看護師チームは初めての入賞が準優勝という嬉しい結果となりました。



来年度も開催される予定となっておりますので、今年以上の成績を目指し訓練に努めてまいりたいと思います。

インフルエンザについて

感染対策室
飯塚 智彦

冬季に発症する代表的な感染症に、インフルエンザウイルスによる呼吸器感染症があります。例年、流行は12月頃から始まり、1月後半から2月初めにピークを迎え、3月末頃に流行が終息するのが普通です。今回はインフルエンザの特徴と予防法について説明します。

1. インフルエンザウイルスの特徴

症状	・風邪症状 咳、くしゃみ、鼻水、全身倦怠感など ・38度以上の発熱 ・上気道炎症状（咽頭痛など） ・全身症状 頭痛、腰痛、筋肉痛、関節痛など
潜伏期	1～3日（感染してから症状が発症するまで）
感染期間	発症（発熱）後、2～5日間はウイルス排泄、 小児は7日間
感染経路	主に直接飛沫感染（咳、くしゃみ） （間接的にドアノブなどから、手を介し接触感染することもある）



2. 予防策と体調管理

- ①手洗い、うがい ⇒ウイルスが手から鼻や口を通り感染するのを防ぐため
- ②咳エチケットの励行 ⇒咳やくしゃみで人からうつる、または人にうつすのを防ぐため
※咳エチケットとは
 - ・咳やくしゃみはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむける。
 - ・鼻汁・痰などの付いたティッシュは、すぐに蓋付のゴミ箱に捨て、手を洗う。
 - ・症状のある人は、マスクを正しく着用する。（鼻から顎までを正しく覆う）
- ③ワクチン接種 ⇒予防に効果的 ※卵アレルギーがある人は打てません
 - ・接種後、2週間位で抗体が産生され、5か月ほど有効です。
 - （予防効果は100%ではありませんが、発症する可能性を低減し、発症時の重症化を防止すると言われています）
- ④自宅の湿度の保持と換気 ⇒インフルエンザウイルスは乾燥した空気を好むため
- ⑤休息と栄養 ⇒体の自己免疫を高めウイルスの増殖を防ぐため

インフルエンザの予防は、一人ひとりが正しい知識を持って、「うつさない」「かからない」ための取り組みが大切です!!

「かかりつけ医」の紹介状を ぜひお持ちください

当院の初診には、
原則としてお近くの医療機関からの紹介状が必要です。
紹介状をお持ちでない方には、
初診時選定療養費 3,240 円（税込）を
いただいております。
また、紹介状をお持ちの方を優先して
診察させていただきます。

「かかりつけ医」を 持ちましょう！

当院は、皆さんのかかりつけの先生と連携した診療を行っています。地域に密着した診療を行うために、そして患者さん一人ひとりに安全で根拠に基づく適切な質の高い医療を提供するために、ご自宅や職場の近くに「かかりつけ医」をお持ちいただくことをお勧めします。

選定療養費とは？

病院と診療所との機能分担を図るために、国が定めた制度です。200 床以上の病院は、紹介状をお持ちでない方から、初診料のほか、各病院が定めた金額を徴収する制度です。

